

年 月 日

アクアトップSF水性  
リフレッシュ工法  
－打放しコンクリート面－

施 工 手 順 書

工事名称	
所在地	
設計・監理	
請負会社	
施工会社	

大同塗料株式会社

本社 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号  
TEL.06-6308-6288 FAX.06-6308-3618

施工手順書

1. 適用

1-1. 本施工手順書は\_\_\_\_\_工事への  
アクアトップ SF 水性リフレッシュ工法の施工手順書として適用する。

1-2. 本書の適用においてメーカーのカタログや技術資料を参照する。

2. 施工上の注意事項

2-1. 材料の取り扱い

1) メーカーの指示に従い適正な取り扱いを行う。良く攪拌してから使用する。

2-2. 気象条件

1) 温度の影響

気温が 8℃以下の時は施工しないこと。また、日中に気温が上がっても夕暮れから急に気温が低下する場合や、夜間に冷え切った下地が日中になっても温まらない場合がある。性能不良等の原因となるので施工にあたっては十分注意する。

2) 風の影響

風速 5m/秒以上の場合は施工を中止する。特にこれが低温の場合は注意が必要である。風のため気温より壁面温度が一層低くなる。風の影響をなくするためシートを掛けることを心がける。また高層の場合、地上よりまして風速が加わるので注意する。

3) 雨の影響

塗布した塗材が未乾燥のうちに雨にあたると流出してしまう。施工時はもちろんのこと、施工終了後の気象状況にも配慮することが大切である。また施工前に降雨があった場合には、下地に水分が残り、高い含水率を示すことがある。下地が十分に乾燥したのを確認してから施工に入るようにする。

4) 湿度の影響

湿度の高い(85%以上)日に塗装を行う場合は、乾燥が非常に遅く作業性が悪くなる。できるだけ通風を良くする。

2-3. 施工条件の管理

1) 本施工に入る前に必ず試験塗装を行い、現場管理者の承認を得るようにする。下地の差などからくる提出見本との微妙な相違点は予め承認を得ておくことが大切である。

2) 塗材の塗布量が標準塗布量より少なくなると、吸水防止効果のムラ発生の原因となる。塗布量は、平らな面に実際付着させる塗材の標準量とする。

3) 足場板の影の部分は、足場ムラが出やすいので細心の注意を払い、足場を外す前に必ず検査をして、ムラがある場合は補修をする。

4) 本製品は、多少の臭気と飛散があるので、施工にあたっては周辺環境にも留意する。特に近隣の居住者には事前の説明および了承を得るようにする。

2-4. 養生

1) 養生は汚れ防止のため入念に行う。特に非塗布面に誤って付着した時は、迅速に拭き取る必要がある。何よりも施工時に十分に気をつけることが大切である。

2) 望ましくは、捨てテープ法を用いる。捨てテープは吹き付け後 1 時間以内にゆるやかに取り除

く。

- 3) 養生材：ポリフィルム、クラフト紙、新聞紙などを粘着テープにて接着する。接着剤付きの養生材は粘着テープが不要である。
- 4) 注意点：施工面とテープとの境目が蛇行しないように行う。また、風等により簡単に剥がれないようにする。

#### 2-5. 塗布面の保護

- 1) 塗材が所定の性能に達するまでの期間は、物との接触、水または油等から保護するため適正な養生を施す。

### 3. 施工手順

#### [アクアトップ SF 水性リフレッシュ工法 打放しコンクリート面]

##### 3-1. 事前確認

- 1) 新築か補修、また基材の種類によって仕様書通りに施工できない場合があるので十分に確認してください(吸い込みの少ない場合は特に注意が必要)。
- 2) アクアトップ SF 水性調合液を塗布した際、稀に風合い変色および樹脂等のうきが発生することがある。これを防ぐための事前確認および塗布量決定のための試し塗りを必ず実施する。

##### 3-2. 前処理

- 1) 塗布対象面は、汚れ、油分などを除去し、清浄かつ乾燥した状態にする(含水率目安：ケット水分計 6%以下)。
- 2) 塗布対象面のクラック、ジャンカ、欠損等のある場合は、色合いおよび吸い込みが同程度のモルタル補修材およびシーリング材等で補修し、乾燥・硬化した状態にする。
- 3) 非塗布面に対しては必ず養生する。
- 4) 風向き、気温等の影響および塗布の方法により臭気が強く感じられることがあるので臭気対策のための養生を行う。

##### 3-3. 施工

- 1) アクアトップ SF 水性は希釈せずそのまま使用する。
- 2) 塗布方法は短毛ローラーを使用して塗りムラの無い様に施工する(スプレーで塗装する場合は、霧散するので周辺の養生はより確実に行う)。
- 3) アクアトップ SF 水性は乾燥すると塗布面と未塗布面との区別がつきにくくなる。塗りもれないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布する。
- 4) アクアトップ SF 水性を塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度に厚塗りせず数回に分けて塗り重ね、所定の量を確実に塗布する(標準塗布量 0.08~0.10kg/m<sup>2</sup>、スプレーで塗装する場合は、霧散するので 2~4 割程度多めの量を塗布する)。アクアトップ SF 水性を塗り重ねる場合は 1 時間以内に塗布する。
- 5) アクアトップ SF 水性と着色剤は質量比 100 : 30(標準)の割合で混合しよく攪拌する。着色剤は粘度が高く、缶の底、内壁に付着しやすいので注意して攪拌して、均一に混合しているか確

認する。少量のアクアトップ SF 水性と着色剤を混合してから、残りのアクアトップ SF 水性を混合すると均一化しやすい。施工中も分離していないか注意し、一定時間ごとによく攪拌する。

- 6) 塗布方法は短毛ローラーを使用して塗りムラの無い様に施工する(スプレーで塗装する場合は、霧散するので周辺の養生はより確実に行う)。
- 7) 塗りもれのないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布する。
- 8) アクアトップ SF 水性調合液を塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度に厚塗りせず数回に分けて塗り重ね、所定の量を確実に塗布する(標準塗布量  $0.20\sim 0.24\text{kg/m}^2$ 、スプレーで塗装する場合は、霧散するので2~4割程度多めの量を塗布する)。アクアトップ SF 水性調合液は1時間以内に2回目を塗布する。
- 9) アクアトップ SF 水性調合液の塗布面は  $20^{\circ}\text{C}$ 、24時間以上乾燥養生する。
- 10) アクアトップ SF 水性調合液が塗布面以外に付着した場合、速やかにシンナー等で拭き取る(固着すると全く除去できなくなる場合があるので十分に注意する)。
- 11) アクアトップ SF 水性調合液は、必要量だけ調合し、2~3日以内に使い切る。

#### 3-4. 検査

- 1) 完了したアクアトップ SF 水性調合液の塗布面( $20^{\circ}\text{C}$ 、72時間以上の乾燥養生後)に水をかけ、撥水状態と30秒から1分以内に水濡れが出ないことを確認する。
- 2) 塗布もれ箇所については、乾燥後に所定の量を再度塗布する。

※冬季等の低温時や高湿時、塗布後2~3日以内に雨に打たれた場合、撥水性の発現が大幅に遅れることがある。

※改修工事等で、コンクリートの中性化が進行している場合は、撥水性の発現が大幅に遅れることがある。

※吸い込みの多い素地では吸い込みが収まるまで塗り重ねる必要がある。その際、コンクリートの風合いを損なうことがあるので、必ず事前に試験塗装を行い、確認する。